

## 大分県支部

### 水産業の産地間競争の戦略における調査研究

(社) 中小企業診断協会大分県支部では、自己研鑽と地域産業の活性化に寄与するため、毎年テーマを決めて調査研究事業を行っています。平成 23 年度は水産業をテーマに選定し、『水産業の産地間競争の戦略における調査研究』を実施しました。調査研究では、水産業を取り巻く環境と大分県内の水産業の状況を調査した上で、4 つの事業所の視察を実施しました。

なお報告書は、以下の構成になっています。

第 1 章は、テーマ選定の理由と調査研究の目的、調査研究の進め方について記述しています。

第 2 章では、日本の水産業の現状について、水産物の消費・需給の状況等も含め記述しています。

第 3 章では、視察を行った 4 つの事業所「大分県漁業協同組合鶴見支店」、「高橋水産 (株)」、「(株) 兵殖」、「漁村女性グループめばる」の視察レポートとなっています。

第 4 章では、「診断士の視点で診る水産業の課題」と題し、水産業が直面している課題について整理・分析した上で、バリューチェーン (サプライチェーン)、ブランド、IT (情報技術) の 3 つの視点から課題について考察しています。

第 5 章では、水産業の今後に向けた提言を行っています。ここでは、その第 3 節「水産業の地域活性化に向けた『大分県モデル』を目指して」よりそのエッセンスを紹介します。

#### 水産業の地域活性化に向けた『大分県モデル』を目指して

徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」の事例が示すとおり、地域の産業振興は、地域振興と表裏一体で進めなければならないことに留意しなければならない。

水産業者は、地域社会を構成する主要な一員であり、『漁村女性グループめばる』の地域振興・コミュニティの要としての活動は、地域活性化に向けた『大分県モデル』の一つの案として大いに期待される。このようなグループが各地の漁村に次々と出現し、漁村地域に根ざした活動を展開し始め、さらに、漁村グループ間のネットワークや農村・漁村間のネットワーク、産地と消費地間のネットワークなどさまざまな交流の網が広がることにより、水産振興、地域振興につながり、豊かな大分県になることが期待される。その取り組みには、地域の水産業の基盤的役割を担っている漁協や地域住民も行政等と手を携えた積極的な参画が望まれる。

また、少子高齢化、過疎化等社会及び経済の閉塞感が漂うなか、地域活性化の視点としては、企業的に売上、利益を追求する経済活動と、ボランティア的に地域社会活動の双方に参画する「地域型働き方」意識と、それを容認する社会、組織、職場づくりが求められる。

さらに、共同で地域の課題を解決していくには、地域コミュニティづくりの視点も欠かせない。そのためには、「漁村発地域コミュニティ」として、水産物、農産物、都市のリサイクル品、障がい者施設の商品等、関係するグループや個人が皆持ち寄りで参加する「市(伊)」の開催、地域の伝説を題材にしたドラマ・映画づくり、「一日漁師」体験会、「巻網漁業見学会」、「養殖漁業見学会」といったイベントの開催等が考えられる。